

令和 2 年 7 月 13 日現在

機関番号：34203

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12185

研究課題名(和文)多職種協働プレパレーションモデルの開発：プレパレーションの定着を目指して

研究課題名(英文)Development of Multidisciplinary Medical Preparation Model: The Establishment of the Preparation

研究代表者

流郷 千幸 (Chiyuki, Ryugo)

聖泉大学・看護学部・教授

研究者番号：60335164

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題では多職種協働プレパレーションを推進するために、多職種が協働してプレパレーションを実施しているクリニックの見学、医師、保育士へのインタビュー、プレパレーション検討会(代表：流郷千幸)に、HPS、CNSを招き、実践上の課題を検討してきた。これらの内容について「多職種協働プレパレーション」をテーマとした交流集会(日本小児看護学会)を行なった。また、2019年は「多職種協働プレパレーション」をテーマとしたシンポジウム(本学公開講座)を開催した。加えて、医師、臨床検査技師、放射前技師等のプレパレーションの捉え方を把握するために質問紙調査、インタビューを実施し、その結果を学会等で発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小児看護領域において、プレパレーションの必要性は広く認知されるようになったが、実際には医師をはじめとする多職種の協力が得難いこと、時間的な余裕がないこと等からスタンダードケアとしては定着していない。そのため、本研究課題において、テーマセッションやシンポジウムの開催・意見交換、医師等のプレパレーションの捉え方を質的・量的に調査し、モデル案を検討した。今後、本モデルを普及させることでプレパレーションの定着に貢献すると考えられる。

研究成果の概要(英文)：In our research, firstly, we have conducted field studies at a clinic which operates pioneering multidisciplinary preparation for children to give adequate information before stressful medical procedures, and interviewed doctors and nursery teachers at the clinic. Secondly, we have discussed important topics in the Working Group for Medical Preparation with Chiyuki Ryugo as representative, inviting Hospital Play Specialist and Certified Nurse Specialist who practice multidisciplinary preparation. We have held a theme session on Multidisciplinary Medical Preparation at Japanese Society of Child Health Nursing, and a symposium in open lecture of our University in 2019. Thirdly, we have conducted questionnaire surveys and interviews for medical workers such as doctors, clinical technologists and radiological technicians, to grasp their views on children's medical preparation, and have presented reports at academic conferences.

研究分野：小児看護

キーワード：プレパレーション 多職種協働 小児 医療処置

1.研究開始当初の背景

研究者らは平成 23 年、看護師が行うプレパレーションを支援するために、「子どものプレパレーション検討会」を立ち上げた。参加者は総合病院の小児病棟に勤務する看護師、病棟保育士で、プレパレーションに関する学習、実施上の問題を検討してきた。そのなかで、プレパレーションの実施には、看護師以外の職種の協力が必要であることや看護師が他の業務も行ないながらプレパレーションを実施していくことの難しさが語られた。また、プレパレーションの研究報告をみると看護師によるものが多数を占め、多職種によるものは希少である。小児に関わる看護師には、プレパレーションの概念は普及してきてはいるが、さらなる普及・定着のためには、子どもと関わるすべての職種がプレパレーションの意義を理解し、子どもの最善の利益のために協働して、プレパレーションを行う必要があると考え、本研究課題に取り組むこととした。

2.研究の目的

小児看護領域においては、子どもへのプレパレーションの必要性は広く認知されるようになったが、スタンダードケアとしては定着していない。その理由の 1 つに看護師のみがプレパレーションに関わっていることが挙げられる。医療処置を受ける子どもに最善の利益を保証するためには、子どもと関わるすべての職種が協働して、プレパレーションを行う必要がある。そこで、本研究では、小児科医師、臨床検査技師、病棟保育士等のプレパレーションの理解、実践内容、捉え方を把握する。次に、多職種で構成するプレパレーション検討会で、多職種協働プレパレーションの促進、阻害要因を検討し、多職種が協働して実践できる「多職種協働プレパレーションモデル」を開発する。

3.研究の方法

多職種が協働して実践できるプレパレーションモデルを開発するために、以下の手順で研究を進める。A 県の小児科の診療科をもつ病院に勤務する小児科医師、臨床検査技師、病棟保育士等を対象に質問紙調査を行ない、多職種のプレパレーションの理解、実践内容を把握する。子どもの医療に関わる医師、臨床検査技師、保育士等を対象にインタビューを行い、多職種協働プレパレーション実施上の課題を把握する。プレパレーション検討会において、の結果及び小児看護学会におけるテーマセッション、多職種協働プレパレーションにおける意見交換の内容からプレパレーションの促進、阻害要因を検討し、多職種協働プレパレーションモデル案を作成し、学会等において広く提言する。

4.研究成果

A 県の小児科の診療科をもつ病院に勤務する小児科医師、臨床検査技師、病棟保育士等を対象に質問紙調査を行ない、多職種のプレパレーションの理解、実践内容を把握する。

【目的】

小児に関わる看護師にはプレパレーションの必要性は広く認知されるようになったが、実際

には病院によって取り組みに差があることや、医師をはじめとする多職種の協力が得難いことなどからプレパレーションの定着は十分ではない現状がある。そこで、小児科医師、放射線技師、臨床検査技師等を対象にプレパレーションの捉え方や実施内容について質問紙調査を行うこととした。

【方法】

A 県内の小児科の診療科目をもつ施設の看護師、小児科医師、放射線技師、検査技師を対象に**2018年6月**に質問紙調査を実施した。質問項目は年齢・施設の属性・小児医療従事年数・プレパレーションの認知の有無・医療処置前・中・後のプレパレーション状況などである。看護師、医師においては注射や点滴の場面、放射線技師は**MRI**や**CT**、検査技師には脳波を想定して回答を求めた。

【結果】

分析対象は看護師**99**名（回収率**31.8%**）、小児科医師**22**名（回収率**41.5%**）、放射線技師**49**名（回収率**45.0%**）、検査技師**34**名（回収率**33.7%**）であった。小児医療従事平均年数は、看護師**7.02±7.0**年、小児科医師は**13.6±9.7**年、放射線技師は**14.3±11.5**年、検査技師は**11.8±8.8**年であった。プレパレーションについては、看護師と医者は**90.0%**以上認知していたが、放射線技師**16.3%**、検査技師**8.8%**であった。子どもに処置や検査の方法について説明をしていたのは全体的に約**6**割で、検査や処置を受けるときの感覚についての説明は、放射線技師と検査技師の方が高かった。子ども自身が処置や検査を前向きに取り組めない阻害要因は、恐怖や痛み、子どもの理解度や気質であると全体の約**90%**以上が捉えていた。医療処置を受ける子どもへのプレパレーションの認知は、職種間で差がみられたが、放射線技師や検査技師の実施内容において、子どもへの実施内容の説明、対処方法の説明、苦痛軽減のための工夫、終了を告げること等には差はなかった。

子どもの医療に関わる医師、臨床検査技師、保育士等を対象にインタビューを行い、多職種協働プレパレーション実施上の課題を把握する。

【目的】

プレパレーションをスタンダードケアとして定着させるためには多職種の協働が必要である。そこで、小児科医師が子どもの検査・処置に対してどのような認識を持っているのか明らかにすることを目的とした。

【方法】

A 県内の小児科の診療科目をもつ施設の小児科医師を対象に、**2018年12月～2019年5月**に半構成的面接を実施した。分析は、面接内容から逐語録を作成し質的帰納的に分析した。所属大学の研究倫理委員会の承認を得て実施した。対象者へは、研究目的、方法、参加の自由意志と途中辞退および不利益を受けないこと、匿名性の保証、研究にて公表することを文書と口頭で説明し署名にて同意を確認した。

【結果】

分析対象は小児科医師 4 名であった。分析の結果【診断・治療・効率が優先される】【子どもの特性の理解】【子どもに独自の関わり方を行っている】【親の存在の意義】【プレパレーションには多職種の協働が必要】の 5 つのカテゴリが抽出された。小児科医師は診断・治療・効率を優先しつつも対象が子どもであるため、恐怖心を抱くことや年齢による違いから説明やうそをつかないなど、子どもへの関わりや他の医師の対応を通して独自の関わり方につなげていた。さらに、親の同席は子どもに安心を与える、親がいることで子どもの理解が深まるなど親の存在の必要性を認識していた。しかし、基礎教育においてプレパレーションを学習した経験はなく、プレパレーションという言葉やその意義を知っていても、これまでの慣習や心理的圧迫があるために親の処置への参加は行っていないことが分かった。

日本小児看護学会テーマセッション（2017、2018）

第 27 回「多職種協働プレパレーションの実際」参加者は約 120 名であった。

総合病院に勤務する看護師、大学病院に勤務する看護師、クリニックに勤務する看護師、それぞれの立場から多職種協働プレパレーションの進め方、課題となっていることなど話題提供し、意見交換を行った。内容として、多職種協働プレパレーションを定着させるためには、プレパレーション推進チームを作るなど、まず風土作りが重要であることが挙げられた。

第 28 回「多職種協働プレパレーション Part2」参加者は約 100 名であった。

大学教員から多職種協働プレパレーションに関する質問紙調査の結果（研究成果 の概略）、管理者、HPS（看護師）からみた多職種協働プレパレーションについて話題提供し、意見交換を行った。内容として、組織風土を作るためにコミュニケーションが重要性、プレパレーションという概念をもたない人々へのアプローチとして成功モデルを見せて実感してもらうこと、看護師の役割として、医療者間の調整や情報提供があることなどが挙げられた。

「本学におけるシンポジウム（2019）」

多職種協働プレパレーションプレパレーションの実際」

シンポジストに大学病院に勤務する CNS、総合病院に勤務する HPS(看護師と保育士)、小児科医師を招き、それぞれの立場からプレパレーションの実施内容、多職種協働のための工夫、課題などの話題提供し意見交換を行った。参加者は看護師、保育士、HPS など 48 名であった。意見交換では、医師とどのように協力してプレパレーションを進めていけば良いかという質問があり、CNS から「日常的なケアの中で、看護師が子どもへ説明する習慣をつなげることから始めた。医療処置に親が同席した場合に、ルートをとるのが難しいと親子との信頼関係が揺らぐので、失敗しても医療者への信頼が保たれるようにフォローできるかが重要ではないか」と回答があった。また、HPS、小児科医師からは「スタッフのなかに、プレパレーションの理解者を増やすこと、全員の子どもの事例でプレパレーションを行うことは無理でも、ケースを選んで可能な子どもからプレパレーションをすすめて行けばよい」などの意見もあった。

多職種協働プレパレーションモデル案の作成

プレパレーション検討会においてモデル案を作成しており、今後、学会等で発信の予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 村井博子、流郷千幸、古株ひろみ、平田美紀、鈴木美佐、玉川あゆみ、赤松志麻、柴田まゆみ、渡辺恵子	4. 巻 7
2. 論文標題 多職種協働プレパレーションの実際 日本小児看護学会第27回学会のテーマセッションを通して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 聖泉看護学研究	6. 最初と最後の頁 59-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Chiyuki Ryugo
2. 発表標題 MEDICAL PRACTITIONER ' S PERCEPTION OF PARENT ATTENDANCE AND PREPARATION WHEN TREATING PEDIATRIC PATIENTS
3. 学会等名 The 6th Asia Pacific Congress of Pediatric Nursing（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 流郷千幸
2. 発表標題 多職種協働プレパレーションPart2
3. 学会等名 日本小児看護学会第28回学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 流郷千幸、古株ひろみ、平田美紀、鈴木美佐、村井博子、玉川あゆみ
2. 発表標題 多職種協働プレパレーションの実際
3. 学会等名 日本小児看護学会第27回学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	平田 美紀 (Hirata Miki) (90614579)	聖泉大学・看護学部・准教授 (34203)	
研究分担者	鈴木 美佐 (Suzuki Misa) (10633597)	聖泉大学・看護学部・講師 (34203)	
研究分担者	村井 博子 (Murai Hiroko) (90782649)	聖泉大学・看護学部・助教 (34203)	
研究分担者	古株 ひろみ (Kokabu Hiromi) (80259390)	滋賀県立大学・人間看護学部・教授 (24201)	
研究分担者	法橋 尚宏 (Hohashi Naohiro) (60251229)	神戸大学・保健学研究科・教授 (14501)	